

● 白馬會十年回顧(二)

白馬會の歴史は我國近代洋畫の歴史也、白馬會紀念十週年の展覽會開設に際し首領黒田清輝氏を訪うて左の談を聞く、文字の責都て筆者にあり(二記者)

▲ 不思議に氣が合ふ

初めはお互に研究でもしながら繪を畫かうではないかと云ふので畫家計りと限つたのではない文學家の方もあり又畫家でない方の人もあつてお互の樂みにしやうと云ふのが元のお話であつたのです、それで其私なんかハ歸(外國より)つてから間もなく話になつたもんですから餘り人も知りませぬ、前から知つて居た人、又外の者が知つて居る人などを加へてやつて見た所が不思議に氣が合ふ、新らしく入つた人もあつたけれども非常に間が好く今泉秀太郎といふ人が唯つた一人死んだのみで友達の間でも圓滿にやつて居たんです、それですから如其云ふ間柄の事に就て變化がないのです、マア實際の工合ハ平生皆種々職が違つて居たり何かして一月に一遍宛此十年間續いて寄つて居るのです、初めの中ハ何でもないのですけれども毎月……疎遠な間でも一月に一遍ハ必ず寄るのですが幸せに少ないもんですから、それに寄りさへすれば一所になつて先づ人にも云はれない冗談を云ひ少しも隔てずにやつて居るのです

▲牛井會の由來

一月に一遍寄合ふのに何時と云ふ事なく牛井會といふ名が附いて了つたのです、それハ此四五年、五六年も前になります、二三人の間、赤坂の溜池町に小さい牛肉屋があつたんです、溜池研究所の直ぐ側わきにあるもんです、から研究所で取つて食べたり行つたりして居たんですが後にハ此所で寄合をするやうになつたんです、其處に其牛肉の井があるんです、そこで其牛井と云ふ名が附いたのです、それハ三年計り前に潰れて了つたんで名ハありますが實ハなくなつて了つてるんです、其外には臨時に友達の内に四五人宛寄合ふと云ふ事も當り前、他人の交際にもありますけれども……

【『都新聞』明治三八年一〇月二日】